



・九州北部地方では、今後1か月の気温は平年並～高い、降水量は平年並～少ない、日照時間は平年並～多いと予想されています。

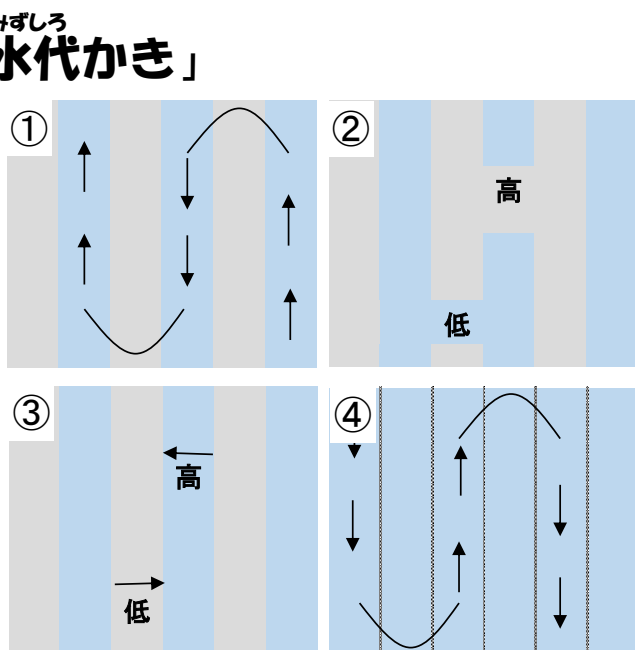
1. 土が8割、水が2割で代かき「浅水代かき」

荒代時に浅水代かきにするとこんなメリットがあります。

- ・田面が確認しやすいため均平が取りやすい。
- ・稲わら等の残渣や雑草をすき込みやすい。
- ・ほ場が均平となり、除草剤の効果の向上が期待できる。



(土が8割みえる状態)



高低差が気になる場合の作業手順(1ウネおき耕)

- ①1列おきに代かきをする。
代かきした場所は土中の水分が浮き上がる。
- ②水が移動して高低差がより明確になる。
- ③横方向に土を運んで高低差を直す。
- ④残っていた列を代かきする。

作業のポイント

- ・代かき当日までに、しっかりと土を湿らせるために早めに入水します。
- ・漏水の原因は畦畔付近が多いです。漏水しやすいほ場では、入水後、代かき前に畦際を周回し踏み固めてから、深めに丁寧にかいてください。

2. 除草剤散布時の注意点

・散布の時期や対象雑草は、除草剤ごとに異なります。農薬ラベルの内容を必ず確認してください。

- 1) **除草剤散布時は、出来る限りの深水にする。**
※田植同時散布は、浅水で植付け後すみやかに、ゆっくりと入水し、水口の薬剤が流れないようにする。
※ ジャンボ剤や豆つぶ剤は、**田全体の水深を5cm以上にして散布。**
(強風の際は薬剤の成分が端に寄りやすいので注意しましょう)
- 2) **処理後3～5日間は水深3～5cmを保つようにする。**
- 3) 水口と水尻をしっかりと止め、散布後7日間は落水や掛け流しをしない。
(2～3日田面が露出しても除草効果に影響しないことが確認されています。)
- 4) 処理直後の多雨を避ける(水尻からオーバーフローさせない)

3. 田植後の水管理

- ・田植後に水を溜めたままでは、ガスの発生や酸欠により水稲の根を弱め生育不良を招きます。
- ・活着した後は間断灌水を行い、圃場に溜まったガスを抜き、水稲の根に酸素を供給しましょう。

栽培期間中の水管理 田植後～中干し

- ①田植後から活着期までは深水として湛水
 - ②活着後は中干しまで間断灌水
- ※自然落水後に浅めに湛水し、数日後に田面が見え始めたら再び湛水(間断灌水の期間は、水持ちの良否や天候により差が生じます)

